

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)西洞院ホテル計画	階数	地上8F
建設地	京都府下京区西洞院通小倉東入車庫跡44-142-0の一部500-一部、嵯峨山町4140-一部	構造	S造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	700 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店、ホテル、工場	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2021年8月 予定	評価の実施日	2019年12月12日
敷地面積	2,508.99 m ²	作成者	(株)竹中工務店
建築面積	2,191.09 m ²	確認日	2019年12月12日
延床面積	12,608.38 m ²	確認者	(株)竹中工務店



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.5 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 89% ③上記+②以外の 89% ④上記+ 89%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 3.5

Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
Q1のスコア= 3.3	Q2のスコア= 3.4	Q3のスコア= 3.8
音環境: 3.0, 温熱環境: 3.0, 光・視環境: 3.4, 空気質環境: 4.0	機能性: 3.2, 耐用性: 3.7, 対応性: 3.2	生物環境: 2.0, まちなみ: 5.0, 地域性: 4.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.3

LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LR1のスコア= 3.2	LR2のスコア= 3.7	LR3のスコア= 3.0
建物外皮の: 5.0, 自然エネ: 3.0, 設備システ: 2.6, 効率的: 3.5	水資源: 3.0, 非再生材料の: 3.8, 汚染物質: 4.3	地球温暖化: 3.4, 地域環境: 2.5, 周辺環境: 3.2

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>計画地は四条通に面しているが住宅群に囲まれ比較的静かな通りである。この地に地域の文化・伝統を生かした外観デザインで、地域のシンボルとして新たに地域住民や観光客が集う基地となるように計画している。</p>	<p>その他</p> <p>特になし</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>室内はF☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に使用し、ハイサッシで光を室内奥まで取り込んでいる。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>室内は照明と内装を一体化させくつろぎのある空間としている。また、情報社会に対応し大容量ブロードバンドを設置し、室内で快適に過ごしてもらえるように配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>3Fに庭園を設け、建物利用者の憩いの場所としている。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LED照明等を採用し、設備システムの効率化に配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>ノンフロン断熱材の採用やエコ製品の採用、又既存躯体を再利用する等環境保護に努めている。ユニット部材や節水型便器を採用し、資源の有効利用に努めている。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>光害対策ガイドラインのチェックリストを満たしている。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される